

# 激増する労災! どうしたらなくなるか

## 「はがねの会」からの提案



「はがねの会」

神戸市兵庫区新開地1-3-18  
プリオーレ神戸504号

電話  
090-6326-9799

メール  
haganetuusin  
@yahoo.co.jp

多発する労災、2カ月で14件も

12月から1月に掛けて、加古川・神戸の両製鉄所で労災が激増、短期間の件数としては、かつてないほどの異常な数です。

加古川・神戸の12~1月の労災発生状況

No.	発生日	事業所	被災者	程度	場所
①	12.03	加古川	協力会社	微災	原料ヤード
②	12.05	加古川	協力会社	不休	線材工場
③	12.05	加古川	協力会社	休業	庄延工場
④	12.06	加古川	社員	不休	線材工場
⑤	12.07	加古川	協力会社	微災	高炉
⑥	12.21	加古川	協力会社	不休	厚板工場
⑦	12.23	加古川	協力会社	不休	発電所
⑧	12.27	加古川	協力会社	不休	ベルト工場
⑨	01.13	加古川	協力会社	休業	輸出岸壁
⑩	01.14	神戸	協力会社	微災	神戸工場
⑪	01.16	神戸	協力会社	休業	線材工場
⑫	01.16	神戸	社員	微災	棒鋼工場
⑬	01.16	加古川	協力会社	休業	寮
⑭	01.19	加古川	社員	不休	浴洗処理棟

(注)③と⑬は統計外扱い

### 従来の対策では解決できない

このような状況のもとで、安全衛生活動の活性化、各職場・個人人の緊張感の維持と職場風土の改善、階層別教育の充実、直協一体となった安全活動の推進が強調されています。知識・意識面の向上を図ることは大切ですが、従来の方法の強化だけでは問題が解決しないことを、この労災の激増は物語っています。

「はがねの会」はこの問題の根本には、人減らしがとことん追求され、仕事の進め方がおかしくなっていることにあると考えています。

### タオルに着火

1月19日朝5時頃、加古川で溶断作業中に後ポケットに入れていたタオルに火の粉が移り、火傷するという事故が発生しました(表⑭参照)。本人はすぐに気づかず、熱くなつてから気づき、素手で消そうとしたが消えず、操作室の同僚に応援を求め、同僚がバケツの水で消火しました。一歩間違えば大やけどを負うところでした。ポケットにタオルを入れていたから、起つた事故でしょうか?火の粉の中で作業していたら何が起るかわかりません。一番の間

題は周りに声を掛けあう人がいない、一人作業であるということです。

### 繰り返されるクレーン玉掛け災害

クレーンの玉掛け時の事故は相変わらず繰り返されています。本来はクレーンの操作と玉掛けは別々の人間でおこなうべきところを、一人で行うという無理をしているからです。

### 作業デッキ抜け落ち

表⑧の事故は、1号ペレットの作業デッキのエキスパンドメタルがズレ落ちて、転落し、肋骨骨折したというものです。設備の老朽化が原因です。今、設備の保守管理をする人員はいなくなり、E・N&Mに外注化されています。伝票を切らなければ仕事は進みません。そのため、日常的に操業以外の設備の保守管理に責任と関心をもつ人がいなくなりました。そういう状況で起きた象徴的な事故ではないでしょうか?加古川でこの事故後、調査したところ、修理すべき箇所が1200件見つかり、その内、400件は早急に修理すべきとして着手されています。

### 一人作業をなくそう

このように安全にとつて問題があれば、一刻も速く、お金を掛けて改善することは当たり前のことです。同様に人にもお金を掛けて、一人作業をなくす、保守管理の要員を配置することなどを急ぐべきです。

若い人の事故が多いことが問題になっています。それを防ぐにはベテランと組んで仕事のやり方を学び、安全と技術を継承する長期的な取り組みが必要です。それは一人作業をなくすことにつながります。そうしてこそ、若い人が働き続ける意欲が生まれる職場にすることができるよう。

### 労災のない職場で品質もアップ

いま、鋼材部門ではクレーン・コンプレインの多発・品質失敗コスト・不良休止が問題となっています。安全と品質は表裏一体の技術の問題です。労災をなくしてこそ品質もアップします。人減らしが極限まで進んだが故に、安全も品質も問題が多発している事態を改善するには、「急がば廻れ」、人への投資こそが必要です。

### みんなで真剣な議論を

労災の犠牲者は現場で働くわれわれです。どうしたら労災をなくし、安全な職場をつくるか、いまこそ自分の命と生活を護るために、考え行動すべき時です。この「はがねの会」の提案を契機に、活発な意見の表明と交換がおこなわれることを期待します。